

0歳児保育の基本

日課の基本をおさえて

日課を作成する上では、子どもの生理的なこと（食べる事・眠る事）遊ぶ事がきちんと、押さえられることが大切です。0歳児にとって一日の生活は、睡眠の保障を核にして、子どもの生理的要求を見ていき、家庭を含めた24時間の生活も合わせて観察していきます。子どもの必要睡眠量と起きてられる時間をまず知る事です。

例) aちゃんの眠りとbちゃんの眠りの差があるかないかなど、つきあわせて、徐々に、日課をつくりあげていきます。入園初めはバラバラでも6月・7月頃になると3回寝と2回寝の子がいます。保育者は2つの日課を見ていきますが、秋以降になると子どもの状況によっては、1回寝と変則2回寝（変則というのは、まだ体力的に夕方寝るかベッドで休憩をとらないともたない子のこと）普通に成長している子どもであれば、1歳半頃には1回寝でも、もつようになります。（長時間保育を除く）

子ども達が一人一人の生活からaちゃんとbちゃんが一緒にいることの喜びを感じたり、自分の遊びに意欲的なるなど、流れる日課の中で生理的要求が満たされ、健康的な発達が進められるように日課を考えたい。

子どもの日課と大人（保育者）の日課

子どもの日課は、育児（生活）と遊びに区分されます。育児はその子が生きるためのものです。遊びは、人間の社会的、文化的環境の中で、人間らしく機能を成熟させ、脳も発達させて、人間の子としての基礎を作っていきます。

人間らしく育つには、日課が基本になりますが、良い環境と良い母子関係から良い大人に出会い依存関係がつけられて援助されることは、その子の一生を決める事になると言っても過言ではないように思います。

一人ひとりを大切にすること、その子どもの発達段階に応じた働きかけをする。その子ども自身の問題として確実に自分のものにできるようにすることなのです。そのためには、大人が子どもを尊重すること。子どもに信頼される保育者になることです。

子どもには、ひとつひとつの行為を丁寧にする、いつも同じようにすることで、大人への思いを確かなものにしていきます。

クラスとしての日課

4月は個々バラバラの日課ですが、5月の連休が終わり、子ども達も1人2人と安定した生活が遅れるようになると、ひとり遊びをする姿が見られます。この時期に大切な事はそれぞれの違いをしっかりと受け止めることです。

0歳時代で一番大切とされる12ヵ月までをどのように守るのか保育力にかけられています。

乳児は個人差が大きいのでクラス全体の中で個を観察し、大人集団が個の発達状況を受け止めておくことが保育上大切なことです。

☆育児の中で育つ社会性

（私）の発見のために・・・集団生活している子ども達にとって、育児の時間は、大人と1対1になれる貴重な時間です。集団の中の一人ではなく、世界にたった一人の〇〇ちゃんとして見てもらうことが、できます。

社会性の確立の大前提に（私）という感覚があること、つまり環境と自分をわけて考えられることが、大切。

育児行為のマニュアル

(食事) ☆これからする行為を言葉で言ってから行為をする。(行為と言葉の一致)

- 1・言葉をかけてから椅子を引いて座る。
- 2・エプロンをする。
- 3・口の回り・左手・右手の順に拭く。(子どもの出す手)
- 4・授乳のときは子どもの右手の前を通るようにして哺乳瓶を運ぶ。
食事の時はスープ類またはお茶を先に飲むようにする。
- 5・食事が終わったらおしぼりで口の回り・左手・右手の順に拭く。
エプロンを外したたんだ後一緒に置く。

(着脱) ☆行為を言葉で言ってから行為をする。＜基本はいつも同じ方向から行うが子どもの意思を尊重する＞

-着衣-

- 1・頭を入れ、片方の手を通して反対の手を通す。(手首を引っ張らず、子どもの肘を袖口に向かって通すようにする)

-着衣-

- 1・片方の袖口をもち腕を抜く。反対の袖口をもち腕を抜く。
- 2・頭を抜く。
- 3・たたむのを見せる。

-排泄- ☆行為を言葉で言ってから行為する。

- 1・交換台に寝かせる、または椅子に座らせる。
- 2・ズボンを脱がせ、おむつカバーを外す。(またはパンツ)
- 3・大便の時は下半身をシャワーで洗い自分の手を石けんで洗う。
- 4・新しいオムツをする。身支度を整える。
- 5・子どもが起きるように援助する。
- 6・座れる子どもは、椅子に座って大人がオムツを洗っている所を見る。
☆すぐに寝返る子や動く子は個人的に配慮する。
- 7・子どもの手をタオルで拭く。または、石けんで手を洗い、タオルで拭く。

育児の中で育つ社会性

☆（私）の発見のために

集団生活している、子ども達にとって育児の時間は、大人と1対1になれる貴重な時間です。集団の中のひとりではなく、世界でたったひとりの〇〇ちゃんとして見てもらうことができます。

社会性の確立の大前提に（私）という感覚があること。つまり環境と自分を分けて考えられることが、大切です。

乳児期の発達課題の大きなものに（私）の発見があります。自分の外見・身体感覚・感情を乳児なりに獲得していくことが、その後の発達の全ての基礎となります。

子は親の鏡

けなされて、育つと子どもは人をけなすようになる。

とげとげした家庭で育つと、子どもは乱暴になる。

不安な気持ちで育てると、子どもも不安になる。

（かわいそうな子だ）と言って育てると、子どもはみじめな気持ちになる。

子どもを馬鹿にすると、引っ込み思案な子になる。

親が他人をうらやんでばかりいると、子どもも人をうらやむようになる。

叱りつけてばかりいると、子どもは、（自分は悪い子なんだ）とってしまう。

☆励ましてあげれば、子どもは、自信を持つようになる。

広い心で接すれば、キレる子にはならない。

褒めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ。

愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ。

認めてあげれば、子どもは、自分を好きになる。

見つめてあげれば、子どもは、頑張り屋になる。

分かち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ。

親が正直であれば、子どもは、正直であることの大切さを知る。

子どもに公平であれば、子どもは正義感のある子に育つ。

やさしく、思いやりを持って育てれば、子どもは、優しい子に育つ。

守ってあげれば、子どもは、強い子に育つ。

和気あいあいとした家庭で育てば、子どもは、この世の中は、いいところだと思えるようになる。

這うことをたくさんとりいれましょう。

歩き始めるまでの、準備期間に誰もが通りすぎる（這い這い）ですが、最近はほとんど這わずに立ってしまう子もいます。実は1歳を過ぎて歩くようになってからも、たくさん這うことは、大切です。這うことには、次のような効果があります。

① 筋力・支持力を育てる

★腹筋背筋や、身体を支える腕、脚の筋肉にくわえ、手足の指先まで全身を使う運動なので、くまなくいろいろな筋力が鍛えられます。上半身を支える筋力は（転んだ時に身体をパット受け止める）ことにもつながるし指先や、腕の筋力は、食事の時に上手にスプーンをつかうといった日々の細やかな動作にもつながっていきます。

②協応能力を育てる。

全身の様々な部位を同時に使いますので、二つ以上の力を同時に連動（協応）の力が育ちます。

脳と神経を刺激し発達を促す。

全身・特に指先までをフルに連動させる動きが連続する中で、脳に沢山の刺激が送られ神経発達も促します。平衡感覚や空間的な認識を養うことにもつながります。

★這うことは、室内遊びしか行えません。雨で外に遊びに行けない日も、室内で家具の間を這う、ベッドや机の下を這うなど、遊びとしても楽しめるように工夫すれば、身体を動かしたいという気持ちを満足させることにもつながります。

繰り返し這う中で、徐々に腹這い～四つ這い、そして徐々に足指をたてて這う六つの這いも可能になってきます。幼児は六つ這いができるまでになっているとようですね。